



新立 村上 朋子

随想 旅は道連れ…？

一人っ子の私に父母は年に1回必ず家族旅行をプレゼントしてくれた。父が時刻表片手に旅程をつくり、それに沿って行くのである。自然との出会い、人との出会いを作ってくれた。

小学校3年生のころだったと思うが、父が時刻表の見方を教えてくれた。それ以来、私は時刻表を操るのが得意になり、父と二人でよく家族旅行の計画を立てていた。東北横断の旅、伊豆半島巡り、名湯を訪ねての旅、斑鳩の里を訪ね、古代のロマンに浸った

旅など今も忘れられないものばかりである。

その土地の特産や郷土料理をいただくのも旅の醍醐味のひとつ。その土地の文化に触れ、歴史を紐解く、心洗われるひとときである。

気がつくとき、両親が私にしてくれたことと同じことをわが子にもしている自分がいた。娘たちも成人し、それぞれの生活を楽しんでいる今は、無理をせず、行けるときに行けばいいと考えている。

家族揃って1年に1回、北海道でのスキーを楽しむこと

だけは続けている。

今、私は一人で、念願であった『奥の細道』を訪ねる旅を楽しんでいる。

人間はいくつもの出会いや別れを繰り返しながら、人生という長い時間を旅していくものである。流れゆく時間も、人の一生も全ては旅のようなもの。この想いを心に刻み、生涯を旅に捧げたのが俳人松尾芭蕉であった。

その芭蕉にとつて人生の集大成ともいえる作品が『奥の細道』である。江戸深川を出発し、東北地方を巡って美濃大垣に

至る全行程2,400キロメートルの行程は、江戸時代は命を賭しての旅だったのである。厳しくも美しい自然や歴史の面影。そして、人々との出会い。『奥の細道』は今も私に旅すること、そして、人生の意味を語りかけてくれる。『奥の細道』の行程を、各地に立つ芭蕉句碑を訪ねながら辿りたいとの想いから、退職を機に思い立ったのである。新しい出会いを求めて、今年、酒田から日本海を南下する行程に挑戦したく、目下計画中である。

1歳ですよろしく



みんなに愛されて大きく育ってね!

近藤優羽くん
(宗意原)
平成19年5月7日
父 充 さん
母 恵美子 さん



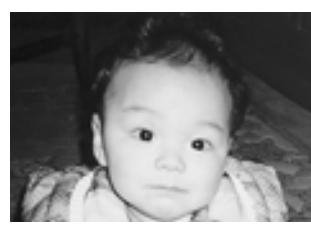
元気に育ってね!

新谷怜央くん
(北黒田)
平成19年5月17日
父 勇一 さん
母 洋美 さん



これからも笑顔の似合う赤ちゃんでいてね!

南 歓喜くん
(本村)
平成19年5月19日
父 克彦 さん
母 真紀子 さん



憎めない我が家のギャングちゃん♡凜とした人に育ってネ。

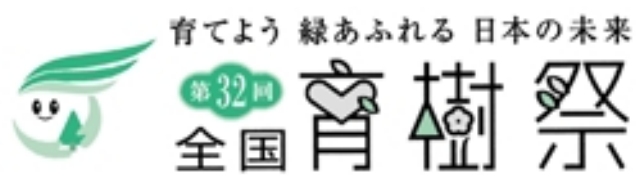
大室 凜くん
(本村)
平成19年5月26日
父 毅 さん
母 奈奈 さん



愛情たっぷりですくすくそだちました。

加藤未稀ちゃん
(中川原)
平成19年5月1日
父 信介 さん
母 とし子 さん

6月に1歳になられるお子さんの写真を募集しています。背景が明るい横長の写真をお持ちのうえ、5月1(木)~9日(金)の勤務時間中に役場3階総務課広報情報管理係へ(先着6名まで)。



とき 10月25日(土)、26日(日)
ところ 松山市「久谷ふれあい林」、「愛媛県武道館」ほか